

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2023年2月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏躍動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

僧俗一致・異体同心の  
団結

年間実践テーマ

① 勤行・唱題の徹底で活動  
の充実

自分自身が日々納得  
のできる勤行・唱題を

② 破邪顕正の折伏で誓願  
達成

御聖意を拝し、身軽法重  
死身弘法の決意に立つ

③ 寺院参詣と登山推進で  
人材育成

『金沢の抜け参り』のお  
姿を忘れず寺院参詣・  
御登山の推進を強化

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>



2023年1月1日 新年勤行会の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

## ① 講中のみなさまへ「道を見失うことのない信心」

ひとりの愚者が成仏の道に迷い、種々の疑問を懐き、仏法の聖者に尋ねた。聖者は一つひとつ懇切丁寧に解答をなし、成仏の道を詳しく示し、愚者の迷いを晴らした。愚者は聖者に「今身より仏身に至るまでこの信仰を退転しません」(御書408 趣意)と決意を告げた。聖者はこれに対し「天魔や外道は仏法をにくみ信心を妨げるが、川の流れを大海が包みこむように、障魔や困難を受け入れ、また薪が火を盛んにするように、信心を盛んにしなさい」(御書409 趣意)と戒めたのであった。これは「聖愚問答抄」の結びである。信仰の道に入り懸命に身を挺しても、三界六道に生きる垢穢(くえ)の身に苦悩は尽きない。垢穢(くえ)のゆえに成仏の種が見えないのである。難題や挫折は「仏身」を得る種なのである。道を見失うことなきよう信仰に励もう。

## ② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その30)

池田氏の「11・16スピーチ」に対する宗務院からの『お尋ね』は、平成2年12月13日、連絡会議の際、宗門側より学会側に提出された。これに対し秋谷会長は「出所不明のテープを元にして作成された文書は受け取れない」として受け取りを拒否した。そこで宗務院は、他の会場の出席者から届いた数本の録音テープと照合調査し、その結果、『お尋ね』の元になったテープが改ざんされたものでないことが確認された。宗務院は12月16日、郵送にて『お尋ね』を学会へ送付し、到着後七日以内に誠意ある解答を求めた。これに対し12月24日、学会からの文書が宗務院に届いた。しかしその文書は、一切の回答をしないだけでなく、かえって事実を歪曲し捏造した九項目の『お伺い』なる詰問状だったのである。(次回 宗規改正と池田らの資格喪失)

## ③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(三界に家なしについて)

「三界」とは私たちの世界を三種に分けたもので、欲望、物質、苦悩の世界をいう。諺(ことわざ)に「三界広しと雖も五尺の身置き所なし」とあるように、世界は広いが、一人の身が安穩とできないほど苦悩が多い、これが三界である。法華経の譬喩品では「三界は安きことなし。猶火宅(なおかたく)の如し。衆苦充滿して、常に生老病死の憂患(うげん)あり」と、仏は三界の苦悩を火に包まれた家に譬えた。つまり常に生老病死の苦しみの中で、煩惱の火がやまない世界を三界と示すのである。仏の真意はこの苦悩からの脱却の法に尽きる。それは、妙法蓮華経を信仰することである。三界の苦悩は妙法不信の罪業なのである。だれもが直面する生老病死に錯乱し、生きる目的も知らず、苦しみの中にだけ埋没する貧窮の姿は哀れである。生きる真実の価値を一緒に見出そう。